

BANDAI 花王・ライオン

資源リサイクルのプロジェクト始動
―垣根を越えた循環型社会の実現へ―

BANDAI SPIRITSと花王、ライオンは「くらしのプラでリサイクル―ガンプラモデルプロジェクト」を始動した。使い終わったガンダムのプラモデルのランナー(枠)と花王・ライオンの生活用品のプラごみを原料化し、新しいガンプラ「エコプラ」を製造する。各社がそれぞれ取り組んできたリサイクル活動を連携することで、垣根を越えた循環型社会の実現を目指す。8月27日から開催した「東京おもちゃショー2026」のBANDAI SPIRITSのブースでプロジェクトの概要を説明すると同時に、「エコプラ」を披露した。

各社のリサイクルの取組で、BANDAI SPIRITSは2021年に「ガンプラリサイクルプロジェクト」を開始した。回収したランナーを回収し、再利用する「リサイクル」を開始した。回収したランナーを回収し、再利用する「リサイクル」を開始した。回収したランナーを回収し、再利用する「リサイクル」を開始した。



花王は2015年に使用済みかえパックを回収し、再資源化する「リサイクル」を開始した。回収したパックを回収し、再資源化する「リサイクル」を開始した。回収したパックを回収し、再資源化する「リサイクル」を開始した。

ライオンは2015年から「ハブラシリサイクルプログラム」を推進し、使用済みのハブラシを回収して再資源化を図っている。生活者や自治体との連携によって、2015年6月から26年5月までに33・5t、ハブラシ268万本を回収した。

また前述のように、花王と使用済みかえパックの回収や再資源化で、資源循環型社会の実現を目指す。今回の3社協働は、異なる素材・回収網を持つ企業が役割を補完し合い、それぞれの回収資源を一つのガンプラに再生した点に意義がある。生活用品メーカーが構築してきた回収の仕組みと、玩具メーカーが培ってきた再生・成形技術を組み合わせたことで、これまで個別に回収・再資源化してきたプラスチックを、新たな製品の原料として活用する道を開いた。業界ごとに完結していたリサイクルを企業間でつなぎ、回収資源の用途を増やす取り組みとして、資源循環の新たなモデルになりそうだ。

研究開発部門研究戦略・企画部の瀬戸啓二部長は、「リサイクリエーションでプラスチックの使用量の削減に貢献し、リサイクルの技術も進化しているが、回収リサイクルを広げるためには限界があり、社会全体で取り組んでいくことが必要」と、今回のプロジェクトに参画した意義を説明した。

27日の概要説明で、3社の回収物によって制作したエコプラを披露した。BANDAI SPIRITSホビークリエーション部の松橋幸男ゼネラルマネージャーは、「3社が回収するプラスチックは樹脂の種類が異なり、プラスチックを溶かす融点が違うので、これを一つのガンプラにするのは非常に難しかった。今後の活動として、BANDAI SPIRITSは10月17、18日にらぼーと新三郷(埼玉県三郷市)で、エコプラを無料配布し、リサイクルを学ぶ体験型のイベントを実施する。」

記者の窓

季刊誌「C&T」秋号の百貨店コスメ(デパコス)特集にて、国内外の有力メーカーを取材した中で見えてきたのが、ラグジュアリー化粧品において、百貨店のカウンターが単なる販売の場を超えたブランド体験の最重要拠点であるという点だ。ラグジュアリーブランドほど、最先端の研究

デパコスの最新動向

ただで顧客に深い印象を残すのは難しい。先進の知見やサイエンスを顧客の悩みや美意識に伝える納得感のある提案へと落とし込む

も一段と増している。オンラインと店頭データを連動させ、対面での細やかなカウンセリングと組み合わせることで、顧客一人ひとりにあわせた一歩踏み込んだ提案が可能になる。デジタル基盤と現場の提案力が噛み合っ

初めて、店頭は継続的な信頼関係を築く場となる。名だたる海外の有力ブランドがしのぎを削る百貨店で、日本のデパコスが独自の体験価値に磨きをかけ、国内外に向けて存在感を高めていくこそが、J Beauty全体の成長へとつながっていくだろう。(文)

単独では成立しない
資源循環の仕組みを実現

花王は「資源循環型社会を実現するためには、業界や社会を越えた協力が大切でガンプラによって、意識が変わることを期待している」(瀬戸部長)と外部との連携を続ける意向を示した。一方、ライオンは「今まで花王さんと2社での取り組みは経験しているが、玩具メーカーが加わったことで、楽しさということから組み組める」(千葉室長)と、資源循環が身近なものになることを示唆した。

前述のようにBANDAI SPIRITSは10月17、18日にエコプラの配布を実施するが花王、ライオンともイベントで